

5月3日の新聞を意見広告で埋めつくそう！

核も武力も、命と生活を守らない！



私たち「市民の意見30の会・東京」は2013年5月3日の憲法記念日に意見広告を全国紙に掲載する、第12期「市民意見広告運動」を開始しました。「継続は力なり」との格言もありますが、他方で過去10年余にわたる意見広告運動に注がれた多くの人びとの努力と主張にも拘わらず、歴史の流れに抗うかのような現在の政治社会状況に、切歯扼腕する思いも募ります。

24年前に私たちは新聞紙上で「反核」を訴えましたが、あつてはならない原発事故という最悪の結果を迎えてしまいました。いま沖縄で噴出している様々な問題の根っこにある日米安保条約がもたらす危険性が、いつどのような形で全国的に「証明」されてしまうことになるのでしょうか。現在の政治状況下では、改憲が具体的な政治課題としてテーブルに乗ってから反対するのでは、もはや遅すぎます。強者の政治の行き着いた先に現在の格差社会があります。粗暴な犯罪や子どもたちの悲鳴の背後には、社会の荒廃と貧困があります。より良い社会を将来に残していくべき私たちの努力と力不足を、残念ながら結果として認めないわけにはいきません。

私たちは意見広告を通じて、人びとが平和に、平等に、人間らしく生きることのできる非暴力と民主的な社会の「実現」を目指します。私たちは、多くの賛同者が結集しその意思を表明する意見広告運動の意義と力を信じ、より広い社会からの信頼と共感を得て、政治を動かす世論の大きなうねりを作り出したいと思っています。そのためには運動の継続に加え、一層大きな運動の広がりが必要です。声を上げて下さい。運動を広げて下さい。来年5月3日の全国の新聞紙面を意見広告で今まで以上にずっと大きく埋め尽くしましょう。みなさんのご賛同とご協力を心からお願い致します。

(文責・野澤 信一／事務局)

竹島や尖閣諸島をめぐる国際摩擦が深刻です。素朴な国民感情を煽るような挑発の応酬と狭量なナショナリズムにもとづいた外交が無用で危険な軋轢を生み出しています。日本ではあの悲惨な戦禍を忘れたかのような無責任な好戦論も飛び交い、これを奇貨として9条改憲論も声高になっています。

沖縄では、オスプレイの強行配備によって、日米政府への怒りが頂点に達しています。「沖縄差別を許すな」「すべての基地の閉鎖・撤去」の声をどのように実現していくべきでしょうか。

昨年3月に起きた東京電力福島第一原発事故は、いまだに収束のメドが立たず、福島県民だけでもいまなお16万人もの人びとが不自由な避難生活を強いられています。原発反対の声が全国でかつてない広がりを見せる中、政府は大飯原発を再稼働し、原子力ムラ出身の原子力規制委員を任命し、「2030年代の原発ゼロ」を目標とする新エネルギー戦略の閣議決定をすり見送りました。

20歳代の若者では非正規雇用が二人に一人となり、年金だ

けでは暮らしていけない高齢者が増えています。生活保護費を削減し、老人の医療負担を増やすなど、社会的に最も弱い立場にある人びとの生存権が脅かされています。

私たちは、憲法9条・25条実現の立場から、こうした様々な問題に対する市民の意見を2013年5月3日の憲法記念日の全国紙に意見広告として掲載します。実際に掲載する意見広告の文面は今後の状況の変化も考慮して決定しますが、現時点では左掲のように考えながら運動を進めてまいります。今こそ市民が主権者として声を上げるときです。意見広告

運動は、さまざまな事情で集会や街頭デモに参加できない方々でも意思表示ができる紙面上のデモです。今、多くの市民が首相官邸前を、国会周辺を埋めつくしているように、私たちの意思と名前を記載した意見広告で新聞紙面を可能な限り埋めつくしませんか？

みなさんの周りにも呼びかけ、仲間を増やして下さい。ぜひ賛同金をお寄せ下さい

市民意見広告運動／市民の意見30の会・東京